スポーツ振興対策特別委員会会議録

令和２年５月18日

場　所　第４委員会室

令和２年５月18日（月曜日）

午前９時58分開会

会議に付した案件

〇概要説明

教育委員会

１．第81回国民スポーツ大会に向けた競技力向上対策の取組について

〇協議事項

１．委員会の調査事項について

２．調査活動方針・計画について

３．県内調査について

４．次回委員会について

５．その他

出席委員（12人）

委員長	窪薗辰也
副委員長	河野哲也
委員	星原　透
委員	横田照夫
委員	日高博之
委員	日髙陽一
委員	脇谷のりこ
委員	安田厚生
委員	髙橋　透
委員	渡辺　創
委員	来住一人
委員	図師博規

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

教育委員会

教育長	日隈俊郎
副教育長	黒木淳一郎
教育次長（教育政策担当）	工藤康成
教育次長（教育振興担当）	黒木　貴
スポーツ振興課長	押川幸廣

総合政策部

国民スポーツ大会準備課長	井上大輔

商工観光労働部

スポーツランド推進室長	飯塚　実

事務局職員出席者

政策調査課主任主事	田中孝樹
政策調査課主査	持永展孝

〇窪薗委員長　それでは、ただいまからスポーツ振興対策特別委員会を開会いたします。

まず、委員席の決定であります。

ただいま、新型コロナウイルス対策としてこのような配置としておりますが、席順につきましては、現在御着席のとおり決定してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

〇窪薗委員長　それでは、そのように決定いたします。

次に、本日の委員会の日程についてでありますが、お手元に配付の日程（案）を御覧ください。

本日は、委員会設置後、初の委員会でありますので、教育委員会から、当委員会の設置目的に関する事項として、第81回国民スポーツ大会に向けた競技力向上対策の取組について説明を

いただきます。

その後に、調査事項及び調査活動方針・計画について御協議いただきたいと思いますが、このように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪薗委員長　それでは、そのように決定いたします。

では、執行部入室のため、暫時休憩をいたします。

午前９時59分休憩

午前10時１分再開

○窪薗委員長　それでは、委員会を再開いたします。

本日は、教育委員会、総合政策部、商工観光労働部においでいただきました。

初めに一言御挨拶を申し上げます。

私は、この特別委員会委員長に選任されました小林市・西諸県郡選出の窪薗辰也でございます。

私ども12名が、さきの臨時県議会で委員として選任され、今後１年間、調査活動を実施していくこととなりました。当委員会では、委員会の担う課題を解決するために努力してまいりたいと思いますので、御協力よろしくお願いいたします。

次に、委員を紹介いたします。

最初に、私の隣が、延岡市出身の河野哲也副委員長であります。

続きまして、都城市選出の星原透委員でございます。

日向市選出の日高博之委員でございます。

宮崎市選出の日髙陽一委員でございます。

宮崎市選出の脇谷のりこ委員です。

東臼杵郡選出の安田厚生委員です。

続きまして、皆様から見て右側から、宮崎市選出の横田照夫委員です。

日南市選出の高橋透委員です。

宮崎市選出の渡辺創委員です。

都城市選出の来住一人委員です。

児湯郡選出の図師博規委員です。

以上で、委員の紹介を終わります。

執行部の皆さんの紹介につきましては、お手元に配付の出席者配席表に代えさせていただきたいと存じます。

それでは、概要説明をお願いいたします。

○日隈教育長　おはようございます。教育長の日隈俊郎でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様方には、スポーツをはじめ本県の教育全般の振興につきまして、日頃から御支援、御協力いただいておりますことを厚く御礼申し上げたいと思います。

本日の特別委員会の関係でございますが、６年後に本県で開催されます国民スポーツ大会に向けまして、小学生から高校生まで一貫した強化体制の構築、また優秀な指導者の養成・確保など、長期的・継続的な視点からの競技力向上の取組を推進する必要があるものと考えているところでございます。

当教育委員会といたしましては、庁内各部はもとより、市町村教育委員会とも十分連携を取りまして、子供たちの競技力の向上に取り組んでまいります。

窪薗委員長をはじめ委員の皆様方のさらなる御理解、御支援を賜りますようお願いいたします。

ここからは座って説明させていただきます。

それでは、早速でございますが、本日御報告させていただきます項目について御説明いたし

ます。

お手元にお配りしておりますスポーツ振興対策特別委員会資料の、表紙の下の目次を御覧ください。本日は、特別委員会から御指示のありました第81回国民スポーツ大会に向けた競技力向上対策の取組についてという項目で御説明させていただきます。

冒頭、私からの説明は以上でございますが、内容につきましては、引き続き担当課長から説明いたしますのでよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○押川スポーツ振興課長　スポーツ振興課長の押川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、第81回国民スポーツ大会に向けました競技力向上対策の取組につきまして御説明をさせていただきます。

ここから、座って説明をさせていただきます。

まず、取組等につきましての説明の前に、国民体育大会の得点方法等につきまして、資料はございませんけれども、御説明をさせていただきます。

国民体育大会につきましては、男女総合得点であります天皇杯と女子総合得点の皇后杯を都道府県対抗方式で競う大会であります。冬季大会３競技と本大会37競技、合わせまして40競技が行われます。

各競技におきましては、８位入賞しますと、個人競技では、１位に対しまして８点、順次１点ずつ下がることになります。団体競技は、競技人数により異なりますが、８人以上の競技で、第１位が64点の競技得点が与えられるものでございます。

この競技得点と、ブロック大会を含め国体に参加した競技について１競技10点の参加得点――最大で40競技ございますので400点の参加得点を合わせまして、男女総合成績並びに女子総合成績となりまして、第１位の都道府県にそれぞれ天皇杯と皇后杯が授与されるというものでございます。

それでは、資料の１ページをお開きください。

本県の競技力の現状につきまして御説明いたします。

本県の成績につきましては、昭和54年に本県で開催されました日本のふるさと宮崎国体におきまして、天皇杯、皇后杯を獲得いたしました。しかし、その後は、平成10年、平成11年には２年連続で天皇杯順位が最下位となるなど苦しい時期がございました。

過去５年間の天皇杯順位は40位前後で推移しており、少年と女子選手が安定した競技力に乏しい、また成年種別の有望選手が不足している、さらに推進体制や練習会場等の環境が十分整備されていない等の課題が山積しており、その対策が喫緊の課題であります。

ここで、別冊の宮崎県競技力向上基本計画の４ページの上段の表を御覧ください。

この表は、実線が天皇杯を、破線が皇后杯の本県順位を表しております。

先ほど、過去５年間の天皇杯順位は40位前後で推移していることを申し上げましたが、平成26年の長崎国体では天皇杯19位という成績を残しております。この大会では、特にカヌー競技、ウエイトリフティング競技、ソフトボール競技、サッカー競技がそれぞれ50点以上の競技得点を獲得いたしまして、下段の表にありますとおり、天皇杯得点は1,001点となっております。しかし、それ以降は30位台後半から40位台で推移しており、競技力が安定しない状況であります。

なお、表にはございませんけれども、平成30

年の福井大会が39位、昨年の茨城大会が41位でありました。

この要因としましては、基本計画の５ページの上段の表を御覧ください。高校生が主力となる18歳以下の少年競技での得点が低いことや、下段の表にありますように、女子選手の競技得点が低いといったことが挙げられます。また、冬季に行われますスキーやスケートの競技得点も加算されるため、南国である本県にとっては不利な条件であるとも考えております。さらに、どの競技におきましても、強豪県との合同練習や強化練習等を簡単に計画できない地理的な条件も要因の一つと捉えております。

なお、先催県であります平成28年の岩手県、平成29年の愛媛県は苦戦を強いられまして、天皇杯を獲得することができておりません。

このような状況を踏まえまして、本県の競技力向上に向けた課題を解決し、本県開催が内々定しております第81回国民スポーツ大会において天皇杯を獲得するとともに、大会終了後も安定的な競技力の維持・向上を図ることは、今後の本県のスポーツ振興において非常に重要であると認識しております。

元の資料にお戻りいただきまして、１ページを御覧ください。

２の競技力向上対策の取組につきまして御説明をいたします。

本県の競技力向上に向けた課題を解決し、取り巻く環境に対応するため、（１）推進体制の整備・充実、（２）選手の発掘・育成・強化、（３）指導体制の充実・強化、（４）環境条件の整備の４本の柱を立てまして対策を講じてまいります。

本日は、この４本の柱の主な取組につきまして御説明をさせていただきます。

まず、（１）推進体制の整備・充実についてであります。

このことにつきましては、これまでも各競技団体や学校体育団体等との連携強化に継続的に取り組んでまいりましたが、今後は官民一体による競技力向上対策本部体制の確立に向けて取り組んでまいります。

この対策本部につきましては、郡司副知事を本部長に平成30年７月に設立いたしまして、県の各部長、市長会や町村長会の会長、県商工会議所連合会の会頭、体育・スポーツ団体や学校関係の会長等、様々な機関や団体の代表の方に委員になっていただき、全県を挙げた組織体制の整備・強化に取り組んでおります。

対策本部の組織としましては、本部会議から付託・委任されました事項について審議・検討を行う強化対策委員会、また強化対策委員会から要請された事項について調査・協議を行う各専門委員会の３段階で、様々な方策について審議等を行ってまいります。

専門委員会につきましては、現在、競技力の調査・分析等を行う強化専門委員会、スポーツドクターやアスレチックトレーナーの養成や派遣についての検討を行うコンディショニングサポート専門委員会、アスリートの雇用・就労のマッチング等に取り組む社会人アスリート等確保専門委員会の３つの委員会を運営しており、今後、必要に応じまして新たな専門委員会を設立していく予定にしております。

今年度は６月４日に本部会議を行う予定にしており、会議で決定した内容を今後の事業改善や各競技団体の取組に生かしてまいります。

続きまして、（２）選手の発掘・育成・強化についてであります。

このことにつきましては、少年種別の中心となる高校生や、本県開催時に選手となる小中学

生といったジュニア層の強化が重要であると考えておりますことから、各小学校、中学校、高等学校、それぞれの体育連盟を通して、強化指定校等の支援や大会の開催補助等を行っております。

また、国体だけではなく、オリンピック等の国際大会で活躍できるジュニア選手の発掘・育成を目指す宮崎ワールドアスリート発掘・育成プロジェクトを実施しております。

このプロジェクトには、県内全域から選考されました体力・運動能力に優れた小中学生が能力開発プログラムや競技種目体験プログラムを受講しております。受講生は、知的能力や身体的能力を高めながら、現在行っている競技を継続するか、それとも転向するかという本人の適性を判断することができるプログラムも経験することができ、選手の可能性を最大限に広げるとともに、スポーツを通して本県に貢献しようとする意識を高めることができる事業となっております。

令和元年度には49名の修了生を輩出しており、現在は小学校５年生から中学校３年生までの125名がこの事業に参加しております。

昨年度は、このプログラムを通して自転車競技に転向した修了生が、17歳以下の選手が参加しますＪＯＣジュニアオリンピックカップ大会におきまして全国優勝するなど、成果も見え始めております。

今後は、ボート競技や馬術競技等、競技人口の少ない未普及競技と言われる競技についても、重点的に競技力向上や環境整備に取り組むことにより、本県開催での競技得点の増加が期待できますことから、力を入れて事業を展開してまいりたいと考えております。

また、本県開催時に各競技、各種別の中心選手となる世代であります小学校３年生から中学校３年生をターゲットエージとして有望選手の強化を図っていく事業や、女性アスリートの活動を多面的に支援する事業等、これまでの本県の課題を克服するための事業に取り組んでまいります。

さらに、成年競技の中心選手として活躍が期待される、全国的に競技実績のある社会人アスリート等を確保するための事業にも計画的に取り組んでまいります。この社会人アスリート等の確保につきましては、本県出身であるかにかかわらず、本県開催終了後も本県に残り、本県スポーツ界を支えてもらえるような人材のリクルートに努めてまいります。

続きまして、（３）指導体制の充実・強化についてであります。

このことにつきましては、各競技団体が主体となり、長期的な展望の下、ジュニア世代を成年世代まで各世代の発達段階に応じた目標を設定し、一貫指導体制を確立していくことが重要であると認識しております。

そのための支援を行ってまいりますが、中でも、全国トップレベルのアドバイザーコーチの活用につきまして積極的に取り組んでまいります。より高度な指導技術を有する全国トップレベルのコーチを招聘し、大会までの戦略やチームづくりのノウハウから試合時の戦術やベンチワークまで、各世代、各種別に応じたアドバイスを受け、各競技の指導体制の充実を図ってまいります。

昨年度は15競技でこの事業を実施しております。例えばバドミントン競技におきまして、ロンドンオリンピックで８位入賞、リオデジャネイロオリンピックにも出場し、現在、秋田県において、国内でも有数の実業団チームでありま

す、東北銀行の監督をされている佐々木翔氏に、アドバイザーコーチとして御指導いただきました。県内アスリートは、佐々木氏のきめ細やかな指導に対し熱心に耳を傾け、目を輝かせて練習に取り組み、昨年度の茨城国体でも少年男子が４位入賞するという成績を残すことができました。今後も、各競技団体の取組が大変楽しみな事業でございます。

さらに、現在県内で活躍しております指導者を、県内トップレベルの研修会やトップチームの視察等に派遣し、指導者の全体的なレベルアップを図ってまいります。

また、優秀指導者の確保のため、企業等との就職マッチング等に努めるとともに、公立学校教員採用試験におけるスポーツ特別選考等を活用してまいります。

指導実績のある指導者や指導者の資質が備わってきた若き人材を全国から発掘し、本県の指導者として活躍していただき、全ての競技において全国トップレベルの指導が行える体制の充実・強化を図ってまいります。

最後に、（４）環境条件の整備についてであります。

このことにつきましては、各競技団体の代表選手やチームが天皇杯獲得に向けた強化練習に効果的に取り組むことができるよう、練習施設や競技用具等の練習環境について必要な整備を行っていくこととしております。

練習環境につきましては、学校体育施設や公共施設等の既存施設の活用を基本としておりますが、老朽化または不足している施設や競技用具につきましては、競技得点の増加の効果が見込まれるものについて重点的に整備していくこととしております。

今年度は、練習施設としまして、自転車競技場、水球プール、アーチェリー場の設計等を行うこととしております。各施設の整備につきましては、今年度の設計内容に基づき今後予算要求を行っていくことになりますが、自転車競技場は県総合運動公園の既存施設の改修、水球プールは宮崎工業高校の既存施設の更新、アーチェリー場は延岡星雲高校に新設をそれぞれ計画しております。整備後は、各競技団体の拠点施設として、天皇杯獲得に向けたジュニアや成年を含めた選手の育成・強化に活用してまいります。

競技用具としましては、レスリングマットや馬術の馬などの整備を行うこととしており、今後も整備効果の見込まれるものにつきまして重点的に整備していくこととしております。

また、スポーツ医・科学サポートの充実にも力を入れ、選手が身体面や精神面において安心して最大限のパフォーマンスが発揮できるような事業を計画しております。選手の体調等をデータ管理し栄養指導等の個別指導に生かしたり、各競技の練習会や合宿等にアスレチックトレーナーを派遣し選手の心や体のケアを行うなど、国体候補選手が効率的・効果的にコンディショニングづくりができるよう支援してまいります。

この４本の柱の各事業につきまして、関係機関と連携を図りながら、天皇杯獲得に向けて全ての県民の皆様に応援していただけるチーム宮崎としての育成・強化に尽力してまいりたいと考えております。

本日は様々な角度からの御指導、御助言等、よろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

○窪薗委員長　ありがとうございました。

それでは、執行部の説明が終わりました。御意見、質疑等がございましたら御発言をお願いいたします。

○渡辺委員　国民スポーツ大会に向けて日頃から一生懸命取り組まれていることに心から敬意を表したいと思います。

その上で、客観的に見た今の状況を確認したいんですけれども。

先ほど御説明の中で、参加点が10点で、40種目あるので合計400点になるというお話がありましたが、まず、開催県は40競技全てに参加点を得られるという理解でよかったかということ。

その上で、この資料の中に、近年の天皇杯獲得県の総合点は2,641点とあります。一方、宮崎は近年で一番高い点数が1,001点ということですので、一番いいときの成績に参加点の400点を足しても1,400点という水準です。参加選手が増えれば入賞の可能性も増えるので、そこの上積み点というのももちろんあると思いますし、天皇杯を獲得するという目標に向けて、県としてとにかく努力をし続けるというのはもちろん分かった上で、このリアルな２つの数字を比較したときに、1,000点以上の点数の差をどう埋めるのかというのを解説いただきたいと思います。

○押川スポーツ振興課長　御質問ありがとうございます。

今、委員のほうから御質問がありました内容ですけれども、長崎国体時の1,001点というのが近年の最高得点でございます。宮崎県開催の場合には、全種目についてエントリーできます。本県開催ではない冬の競技の参加点も合わせて400点を目指していきます。

また、残りの競技につきましても、選手の確保、指導者の養成等を通して上位入賞を目指すことによって、最終的には2,700点という天皇杯得点を目指しながら今後の事業展開を進めるよう考えているところです。

具体的な各競技の得点等につきましては今後分析等をし、それに応じて、選手の確保、指導者の養成、施設の改修等を順次進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○渡辺委員　今の件については分かりました。

岩手県と愛媛県については開催県だけれども天皇杯の獲得ができなかった、と先ほど御説明がありました。

岩手県については、東日本大震災があって、そもそも天皇杯を目指さないという――復興が優先だという考え方で臨まれたと思うんですけれども、10位以内という目標だったような記憶があります。

愛媛県についてはどうだったのか。天皇杯を目指して、取れなかったのか。もしそうであるならば、県の規模等々を考えても愛媛は宮崎のモデルになり得るのではないかと思うので、その辺の整理と結果的な順位も含めて、御説明をいただけないかなと思います。

○押川スポーツ振興課長　愛媛県につきましては、やはり天皇杯優勝獲得を目指して強化を図ってまいりましたが、結果としましては２位という成績でございました。ですから、本県でも、優勝を目指していくというところをしっかりと持たなければ、天皇杯に近付くことはできないかと思っております。

また、愛媛県開催の際は、東京オリンピックが近く、ほとんどの競技が東京近郊を強化の拠点としていたため、東京が天皇杯を獲得したというような現状もございます。

以上でございます。

○渡辺委員　もうちょっと踏み込んで今の話を聞きたいんですが、この愛媛の状況は、東京オリンピックが目の前という状況だったから、イレギュラー的に仕方がないということなのか。

それとも、宮崎県での開催はオリンピック後ではありますが、相当の意識を持って臨まない限り、宮崎も愛媛と同じような状況に陥る可能性が極めて高いという認識なのか。特別だから愛媛はこうなってしまったのかということを、もうちょっとお話を聞きたいと思います。

○日隈教育長　明確に天皇杯を目指さないと言ったのは、私の記憶では高知県だけだったと思います。その他の県は、やはり天皇杯を取りたいと取り組んできたと認識しています。岩手県は、東日本大震災があったため非常に厳しい状況ではあったんですけれども、やはり天皇杯を狙ってはおりました。

東京オリンピックにかかわらず、いつのときも、ライバルは東京都というのが一つあります。宮崎県の場合もこれから取り組んでいくんですけれども、やはり東京都というのは競技力が高い、スポーツマンが多いという状況にありますので、冬の大会も含めて――冬の大会、東京都は結構取るんです。冬でも１位か２位か３位か、それくらいの順位で点数を取ってきます。当然、秋の大会も高得点を取ります。ですから、東京都をライバルと考えると、冬の大会もおろそかにはできないことを含めて、かなり対策を講じていかなくてはいけないのかなと思います。あるいは、全ての競技で入賞を目指していくんですけれども、東京都を上回るような入賞率というか、上位のほうに食い込んでいく努力が必要なのかなと考えています。

今、目指しても取れなかった例で愛媛県が出たと思うんですけれども、福井県、茨城県は取ってきていますので、本県も負けないように取り組んでいく必要があろうかと考えております。

○渡辺委員　最後にしますが、未普及競技に力を入れるということを、この数年、一生懸命おっしゃられております。多分、これも点数の獲得のために有効な手段・方法の一つとして考えられているんだと思います。結果を出すのはもう少し後だろうと思いますけれども、事業を実施していく中で、未普及競技の振興、競技者の拡大、成績の高い方を獲得する等、計画どおり順調に行っているのか、現時点での評価を教えていただければと思います。

○押川スポーツ振興課長　未普及競技につきましては、本年度から取り組んでおります。開催市町村も徐々に決まりつつありますので、市町村のシンボルスポーツとして、地域の市町村との連携、また体育協会、スポーツ協会等との連携、また総合型スポーツクラブ等との連携をしながら、少年種別の人材の育成、さらには成年種目の人材の獲得等を進めてまいりたいと考えております。

○日高博之委員　天皇杯獲得に向けたいろいろな議論をしていて思うのだけれども、底辺を全体的に伸ばしていくのか、それとも宮崎県が持っている強みの部分で点数を取っていくのか、というスタンスが見えてこないんです。どういうスタンスで行くのか――どっちもですという答弁は要らないんですけれども、その辺を聞かせていただきたいと思います。

○押川スポーツ振興課長　現状、あと６年しかございませんので、底辺を広げて、それから競技力を上げるということでは時間的に難しいと思っておりますので、既に優秀な成績を収めている人材の獲得を、県内企業とも連携しながら進めていくというのが、大きな目標であると考えております。

また、少年種別につきましては、現在実施しているワールドアスリート事業等で少年の競技力をしっかりと見極めながら、底辺は最終的に

国体後の普及という形で、まずは底辺よりも高さを目指して進めていきたいと考えております。

○日高博之委員　見極めるという話がございましたが、見極めたら、ふるいにかけるんですよね。そこに集中して競技力向上を仕掛けていく、という段階は、スケジュールで行くと、いつ頃になると思っているんですか。

○押川スポーツ振興課長　小学校３年生から中学校３年生をターゲットエージにしまして――現在の小学校３年生は６年後に高校生等となって少年種別で参加ができます。現在の中学生は６年後に大学生等になって成年種別の選手として活躍していけますので、そこに的を絞って強化を図っていきたいと考えております。

○日高博之委員　時期的なことはお答えいただけなかったですが、ふるいにかけることは必要だと思うんです。強化選手やオリンピック選手も、選ばれるわけですから。そこで一番大事なのは、競技者のピークを大会の時期に持っていくということです。ピークを2026年に持っていくことまで考えてやっていかないと、天皇杯獲得というのは厳しいのかなと思います。非常に重要なので、指導者に対してもそのような指導をお願いしたいなと思います。

それから日隈教育長が言いました冬の競技は、宮崎は非常に弱い。他県に調査等に行かれたのであれば、そこのところをどう判断されたのかとか、今後どうしていくのかといったことについて、答弁をもらえればと思います。

○日隈教育長　まず、冬の競技には、まだ参加できていないような状況です。ジャンプやフィギュアスケートとかについては、選手がおりません。

ですから、まず、本県出身者を中心に本県の選手として参加できる体制をとっていく必要があるのかなと思います。本県の開催直前だけ冬季大会にぽっと行くのではなくて、二、三年前ぐらいから大会参加ができるように、今の段階から選手発掘や本県ゆかりの選手等の確保をしていく必要があるのかなと考えております。全ての競技で参加する努力をしていく必要があると思います。

それと、秋の大会に向けては、先ほど日高博之委員からありましたように、選手・指導者の確保をしていく必要があるということで、今、民間企業にもお願いをし始めたところなんですけれども、私ども県教育委員会でも、高校教諭の部分であるとか、必要な指導者あるいはアスリートとしても活躍できるような選手をできるだけ確保したいと努力をしているところです。

今年も、未普及競技と言われる、例えば女子ではなぎなた、男子では相撲の有力選手を、宮崎とは全く関係なかったんですけれども、どうしても宮崎の教員になってほしいということで採用しました。

例えば、相撲の有力選手として採用した教員は、相撲が盛んな延岡に現在配属しております。相撲は３人で１チームになりますので、選手を３人集めなければいけません。高校教諭で相撲の得意な体育の先生が既に１人おりますので、今度入った若い選手兼指導者と、もう一人選手を確保できればチームができて参加できることとなります。このように、マイナーな競技も参加できるよう努力もしながら、選手あるいは指導者の確保に全力を挙げていかねばならないと思います。

直前までに選手や指導者の確保をしながら、順位をぐっと上げていくという必要があろうかと思います。大会開催の１年前には形が見えてくるように持っていかなければなりません。そ

のためには、宮崎県は環境整備がかなり遅れていますので、ここ二、三年で、練習できるような環境を整備していって、残り３年でしっかり練習が積めるように進めていきたいと思います。

ただ、やはりお金がかかります。財政の関係もありますので、財政課とも十分協議しながら、また議会にも御相談しながら進めていきたいと思います。御理解と御支援賜りますようによろしくお願いします。

○日高博之委員　ありがとうございます。練習環境の整備なんですけれども、体操の練習場はどのようになっているんですか。

○押川スポーツ振興課長　今後、環境整備、施設の整備につきましては、年次計画を考えております。本年度設計を行いますのは先ほど御説明した３競技ですけれども、今後の計画の中には体操競技も入れていかなければいけないと考えております。また、どこを拠点にするのかも重要になりますので、精査した上で整備をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○日高博之委員　早くしないと、もう国体が終わりますよ。

あと、カヌー競技が天神ダムで計画されているようですけれども、いろいろなハードルがあって、大分緩和されてきたということで聞いております。

行政側は、仮設でいいという感じですね。一方、競技団体は常設を望む声が強い。カヌーは点数をいっぱい取っているので、さっき言ったように国体後も、と考えたら、常設という競技団体の意見も酌むべきではないかと、私は思っているんですけれども、どう考えていますか。

○日隈教育長　カヌー競技については、カヌー協会のほうで、県議会の先生方にも大変お世話になったと聞いております。天神ダムでコースを取るにあたって、農林水産省の許可等が必要だったということで、江藤大臣のほうにもお願いされているということで、大変御尽力いただいているところです。

ただ、常設の艇庫――カヌーの艇を置くところの整備については、競技会場は宮崎市が所管となりますので、今、協会と宮崎市で協議されていると聞いております。暫定的にやるのか、恒常的に今後ともやっていくのかという協議をして、置き方を検討されていくかと思います。当然、県もそれに対する支援は考えておりますので、まず、そこの話し合いが早く進むことを期待しているところです。

○日高博之委員　宮崎市が後ろ向きだという意見を聞くもんですから、その辺については、ぜひ、もうちょっと宮崎市に指導してください。

最後に、これは基本的なところですが、全ての競技会場は、もう決まっているんですか。まさか決まっていないということはないと思いますが。

○井上国民スポーツ大会準備課長　競技会場につきましては、今、およそ７割決まっておるところでございます。今年度、会場市町村と競技団体との協議を急いでいかなければならないと考えているところです。

○日高博之委員　それは急いで競技場を決めたほうがいいと思うんです。国体は、場合によっては全県的にやりますと知事が言われておりますけれども、財政力がないところにやりますといきなり言われてもできません、という声を町村長から聞きます。

その辺を詰めていかないと、市町村はコロナで予算がどんどん持っていかれていますので、もっと積極的にどういう形でやっていくのか決

めてください。決まったら、その競技場で練習とか練習試合だとかをやっていくと地の利が出てくるので。

だから、もっと早く、もうこの時点で決めてください。よろしくお願いします。

以上です。答えはいいです。

○横田委員　今、例えば野球、サッカー、バスケットボールとか、スポーツはプロ化がかなり進んできましたよね。いわゆるジュニアアスリートの中にも、プロの選手になりたいという思いがあって、なれる可能性の高い県外の強豪校に行きたいと思っている子がたくさんいるかと思います。それがいわゆるターゲットエージになるのかなと思うんですけれども、そういう子供たちに宮崎県の誇りと名誉をお願いして、宮崎で何とか頑張ってほしいと頼むというのはなかなか難しいのではないかと思っていますが、どのように考えておられますか。

○押川スポーツ振興課長　現在、小学校５年生から中学校３年生までを対象にしておりますワールドアスリート事業では、子供たちの能力開発だけではなくて、宮崎県の選手として活躍することも含めて子供たちの意識啓発をしております。また、高校や一般の指導者ともマッチング等をやりながら進めていくことで、将来的に宮崎に残ってもらえるよう考えながら進めておるところでございます。

○横田委員　分かりました。すばらしい能力を持った子供たちが、宮崎県のために頑張ろうという思いになってくれるよう、ぜひ頑張っていただきたいなと思います。

もう一つですけれども、宮崎県内にも過去、１つの競技団体として全国優勝したところっていっぱいありますよね。例えばバスケットボール、バレーボール、ハンドボール、剣道ほかいろいろ、成人も含めて全国優勝したスポーツはあると思うんですけれども、それを続けるというのは、やっぱりなかなか難しいと思うんです。

例えばバスケットボールでも、秋田県の能代工業というのは常勝チームといいますか、常連校だったんだけれども、最近はなかなか勝てない。続けるってなかなか難しいんだけれども、全国優勝できた要因は何かあると思うんです。

その要因をちゃんとつかんで、これからのチームづくりに生かしていくこともすごく大事じゃないかなと思うんですけれど、どのようにお考えでしょうか。

○押川スポーツ振興課長　長崎国体の際に19位という成績を残したときは、その前にありました夏の高校総体での入賞数が多かった、という分析をしております。ですから、全国の高校総体等でも活躍できるような競技力をしっかりと確保することが少年種別の国体での得点につながっていくと考えております。

現在、県外の優秀な選手も宮崎県の高校に進学をしていただけるよう、県立高校ではスポーツ推薦制度で県外の選手も取れるようになっております。県内の中学生の勧誘だけではなく、そういった制度も有効に活用しながら、すばらしい選手を宮崎に呼び込んでいきたいと考えております。そして、その選手が宮崎国体、全国スポーツ大会のときに活躍していただけることを目指して、現在、事業を進めているところでございます。

○横田委員　ありがとうございます。県外のアスリートも、宮崎は６年後に全国優勝を狙っているんだと。そのチームに入ることがプロに入る近道になるかもしれないとか、そういう方向になって、どんと来てくれるとうれしいなと思います。ぜひ頑張ってください。ありがとうご

ざいます。

○来住委員　決して水を差すものではないんですけれども、天皇杯を目指すことはそれ自身が非常に大事なことであって、意義もあると思うんです。ただ、率直に言って、天皇杯を目指すことが自己目的になるのはどうなのかなと、それは違うんじゃないかと思うんです。

人口が何倍もいるわけですから、基本的には東京などの大都市が優勝するのは当然だと思います。ずっと見てみますと、東京で行われたときには当然ですけれど、岩手国体のときも愛媛国体のときにも、東京が優勝されている。それ以外は、ずっと東京は２位でいらっしゃる。東京だけでなくて、埼玉だとか大きな県が上位を占めるのは当然のことだと思うんです。

例えば新潟が優勝して２年後には33位、５年後には40位、山口が優勝して２年後には32位、６年後には40位、長崎が２年後に28位、４年後には41位となっていまして、和歌山が２年後には26位になっているんですけれど、これをどう見るかというのがあると思うんです。つまり、優勝すること自身が自己目的化されて、終わったらもう全然、極端に言えば関わり合わないと。それは、スポーツとしてどうなのかと思うんですけれども。

天皇杯を目指すこと自体は――競技者はみんな優勝したい、入賞したい、いい成績を残したいといって、日頃頑張るわけですね。そして、試合のときには試合のときで頑張って、それがスポーツマンですから。

そういう点で、ちょっと教育長にお聞きしておきたいと思うんですけれども、僕は、自己目的化することについては異見があるんです。さっき出しました新潟、山口、長崎などのその後の変化から見てもどうなのかなと思うんですが、その点、どうなんでしょうか。

○日隈教育長　来住委員のおっしゃるとおり、天皇杯を目指しますという、これは１位を取る一過性のことを申し上げているわけではなくて、開催のときには、取りたいというほど競技力も上げていきたいということを指しております。資料にもあるんですが、宮崎県はスポーツランドを標榜しておりますので、その後も継続的に。

今回、施設整備も行っていきますし、健康の問題、スポーツをやることで寿命も延び、健康年齢が引き上がるんだといったイメージも含めて、トップはなかなか難しいですけれども、開催後もある程度の競技力を維持していき、健康維持にもつなげていくという形を、宮崎の場合は少なくともやっていきたいと考えています。

また、その後の施設活用ですが、県外からもたくさんのスポーツ団体をお呼びしたり大会を誘致したりといったことにも努めていかなねばならないと考えております。そのことで地域振興にもつながるということで、今回、施設整備も分散型という形で延岡と都城に施設を造りますが、県民に活用してもらうのは当然のこととして、県外からも大会等を誘致していきながら、本当の意味のスポーツランドを実現していきたいという計画であります。

そういう意味で、天皇杯１位を目指したいという機運をずっと上げていって――本当に取りたいし、もしかすると結果的には取れないかもしれませんが――そこをピークに持っていって、その後どれだけ維持していくか、その活用については今申し上げたとおりの取組を進めていきたいと考えております。

○来住委員　開催県だから天皇杯を目指して取った。しかし、２年後には20位、30位、５年後や６年後には40位とかになった。それはそれ

で結果ですが、私はそういうやり方というのは、選手が一番迷惑を受けるんじゃないかなと思います。開催するまでは一生懸命応援もする、予算も組んでやってあげるけれども、開催が終わったら全然見ないというのは、本当にだめじゃないかと思うんです。それは開催県の指導部が喜ぶだけで、実際にスポーツを楽しむ人たちからすれば、終わったらもう何にもしてくれないということでは全然話にならない。僕は、それはやり方としても、まさにスポーツ的でもないと思うんです。

そこは他県の状況なども見て――先ほど言いましたように、新潟、山口、長崎などが５年後、６年後に40位に下がっていくのはなぜかというのはお調べにならないとまずいなと思います。そういうことについては、今お話しされたように、ぜひ引き続きやっていただきたい。宮崎の次の開催県は当然どこも天皇杯を目指してくるでしょうから――東京には簡単には勝てないとは思うんですけれども、そこはもっと県民的な議論が必要じゃないかなと思うんです。頑張って頑張ってやっても20位だったとか、15位だったとか、それでもいいと僕は思います。頑張ってもそこまでしか行かなかったということが起こり得ますから、それはそれでいいと思っているんですけれども。

何か意見がありましたらどうぞ。

○日隈教育長　御指摘のとおり、過去の例で見ると、大会が終わった後、順位が下がってきている県があります。その点については、先ほど申し上げたようなことで考えているんですが、選手や指導者とかの充実を図っていくことで、国民スポーツ大会で優勝できれば――例えば中学生とか、今、スポーツの強い学校に県外から入ってくるんです。宮崎でも、小林高校とか高千穂高校とか、寮を構えて県外からも学生を受け入れております。もっと優勝できる、あるいは上位に食い込めるチームができれば指導者は残りますので、若い層を含めて入ってくるのかなと考えております。また、成年についても、これから民間企業にチームをつくっていただきますので、その後も残っていくのかなということもありますので、これを何とか落とさないような努力をしていかなければならないと考えております。

そこのところは、ちょっと予算がかかりますがお願いしますと、先ほど申し上げましたが、これからつくっていく練習会場や施設を活用して――今はないものをちゃんと整備していくので、どこまでというのは断言はできませんけれども、ある程度充実していきますので、そういった施設を十分活用していきたいと考えております。

それと今回の取組は、まずは県民の声に応えるという形で――各県ともトップを狙っていますので、やはり本県もトップは狙っていきたいという気持ちで、そういった施設整備や選手強化、指導者の招集も含めて、体制は取っていきたいなと考えております。

あと、施設の活用についてですが、これだけの施設を整備していくというのは、今後の地域振興、本県の経済にも寄与するような形で、この人口減少の中でどう地域経済を回していくか、そんな中でスポーツ産業というぐらいまでやっていけないかな、ということも見据えながら取り組んでいきたいと思っております。

○日高陽一委員　３番の、指導力の強化のところに、全国トップレベルアドバイザー派遣研修会とありますが、40競技のうちどのぐらいの競技にトップアドバイザーを当てる予定なんで

しょうか。

○押川スポーツ振興課長　昨年度は15競技で、トップの指導者に来ていただきました。今後につきましては全ての競技で行いたいと考えております。

○日高陽一委員　先ほどからスポーツランドみやざきという話があるんですけれども。

体幹トレーニングの第一人者の木場克美さんという方がいらっしゃるんですが、その方が、宮崎は冬に本当にたくさんのトップレベルの選手が集まる。イコール、トップレベルの指導者とトレーナーが集まる。２月は、そういうトップレベルの指導者とトレーナーの宝箱なんですよ。だから、観光でいろんなファンを呼ぶのも大事かもしれないですけれども、そこを活用しないと本当にもったいない、という話をずっとされていました。

スポーツランドみやざきと発信している中で、国体で最下位層というのはちょっとどうかなと思います。スポーツランドみやざきならではの特長がたくさんあるので、どんな選手や指導者が来ているのかということを、商工観光労働部と連携しながら把握することで、宮崎の競技力向上にもつながるんじゃないかと思いますので、ぜひやっていただきたいなと思います。お願いします。

○飯塚スポーツランド推進室長　別冊の基本計画のほうの23ページを御覧ください。こちらの一番下のほうに、県内スポーツキャンプチームとの交流マッチングというのがございます。例としましては、昨年、ラグビー日本代表が来たときに、日本代表のフィジカルコーチの講演会を県庁でいたしました。その後、高鍋高校でスクラムコーチによるスクラムの講義も受けました。

今後、延期になりましたけれどドイツ陸連も来る予定ですし、トライアスロンの日本代表、馬術、柔道、ラグビー、ウエイトリフティング、ボクシング等もトップ選手が来ますので、スポーツ振興課と連携しまして、そういった機会を逃さず、技術を教えていただくことに取り組んでまいりたいと考えております。

○日高陽一委員　ありがとうございます。やっぱり秘密な部分もあって、オープンにしてくれない部分があるのかもしれませんけれども、連携の力によってそれは開かれてくると思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○星原委員　先ほど課長のほうから４項目、競技力向上の関係で取組の説明をいただいたんですが、まず私は今の時点で、天皇杯を目指すという目標を掲げないことには、選手も、指導者も、それぞれ皆さん方もあれなんで、目標は掲げていいと思うんです。

いま我々は６年後のことをしゃべっているわけですけれども、国民スポーツ大会は毎年行われているわけですよね。今年もある、来年もある。ずっとあるわけです。その目標を掲げて、参加点を取るというのはどこの県もやっているでしょうから、それに向けて競技の施設とか指導者、そういったものがしっかり出来上がることが大事なわけです。

施設だったらいつまでに出来上がるのか。１年前か、２年前か。地の利を生かすためにはそういう整備も大事なわけです。そして、指導者次第で子供たちは育っていくわけですから、これから指導者を育成するというのはなかなかなので、いい指導者を備える、連れてくる、あるいは現状の中でそういう人たちを連れてきてやっていく、という状況ですね。

そうなってくると、私は予算面だと思うんです。施設の整備の面でもあるいは選手育成・強化の面でも、すばらしい指導者たちを連れてこないとなかなか厳しい。これはもう47都道府県が競争している中で、どうやるかだけの問題ですから。

６年後に向けて、施設整備の面あるいは人材育成・強化、そういう面に向けての予算的なものはここに出てきていないわけですけれども、毎年こういう形でこれぐらいずつ予算を積んで６年後の大会に臨む、という予算の面もはっきり出してこないと、多分厳しいんじゃないかなと私は思うんですが、そういう点について、今、どういうふうに捉えて準備をしているんですか。

○押川スポーツ振興課長　2026年の全国スポーツ大会に向けた予算の算定につきましては、スポーツ振興課である程度しておりますが、これから競技団体等のヒアリングを行い、実際にその予算でいいのかも含めて精査し、県民の皆様にもある程度お示しをしながら理解を得ていかなければいけないと考えております。

また、そのあたりにつきましては、順次、議会の皆様にも御報告をしながら進めさせていただければと考えております。

以上でございます。

○星原委員　もう一点は、国民スポーツ大会は、それぞれ都道府県が中心になってやるわけですから、市町村、競技団体、民間の企業に対して、県がしっかりリーダーシップを発揮できる体制をつくっていかないといけない。相手に任せる形では、なかなかいい成績、いい形になっていかないと思うんです。県が天皇杯を目指して、天皇杯を獲得するんだという強い意気込みがあるのであれば、市町村、競技団体、民間の企業に対しても、それをちゃんと見せていかないと、と思うんですよ。連携は連携でいいんですけれども、県がそういう面の指導力、リーダーシップを発揮してほしいと思うんですが、その辺に向けての心構え、心意気というのはどういうふうに思ってるのでしょうか。今、一生懸命やってはいるとは思っているんですけれども。

○押川スポーツ振興課長　全国スポーツ大会に向けた強化の一番根本となります会議が、競技力向上対策本部会議となります。今後はそこで協議されていること、それを受けて県がやろうとしていることを、報道等を使いながら、県民の皆さんにも理解を求めていく、周知していくことで県全体の盛り上げをつくっていかなければいけないと思っております。

報道だけではなく、県の広報紙等もございます。また、市町村の広報紙にもそういうことを取り上げていただくようなお願いをしていきながら、県民全体でこの目標に向かってやっていくんだという体制づくりを今後は進めていきたいと考えております。

○星原委員　ぜひ、そのような方向でよろしくお願いいたします。

○脇谷委員　第１回目、昭和54年の宮崎国体がすごく盛り上がっていたのが私も少し記憶にあります。当時もう天皇杯、皇后杯というのがあったんだなと、それこそ議員になって分かったんですけれども、当時も冬の競技、例えばスキーやジャンプもあったのでしょうか。

○押川スポーツ振興課長　当時も冬季の国体というのはございましたけれども、宮崎での開催は秋の国体のみですので、冬季国体はほかの、そういう施設があるところでしか開催ができておりません。現在も冬季国体はそういう施設等があるところでしか開催しておりません。当時も、国体の競技としてはスキーやジャンプもあ

りましたけれども、宮崎国体の中の競技ではございません。ただ、天皇杯得点の中には冬の競技も入っているということになります。

○脇谷委員　私も新体操のほうで国体を見ましたら、当時その競技がなかったんですけれども、――冬の競技が得点に入っているというのは今回初めて知りました。長崎県が天皇杯、皇后杯を取っているんですけれども、ここも冬の競技を入れて天皇杯を取っているということなんでしょうか。

○押川スポーツ振興課長　各競技で何点得点したかという詳細は今のところ不明ですけれども、長崎国体につきましても、冬季も含めた形の男女の総合得点で天皇杯、女性の得点で皇后杯という形になっております。

○脇谷委員　第１回目、昭和54年度からすると、競技の種類も全然違うと思うので単純に比較はできないと思いますが、冬季のスキーやジャンプなどの得点を含めての天皇杯、皇后杯を目指すとすれば、どのような対策があるのでしょうか。

○押川スポーツ振興課長　まず、選手を獲得していくというところが１つの対策になると思いますが、この選手獲得につきましては、当年度のみ宮崎県の選手として登録するということでは出場することができません。複数年、宮崎県の選手として登録しなければなりませんので、最低でも３年前には宮崎県の選手として出ていただく形でお願いをすることになると思います。この一、二年でどんな人材が全国的にいるのか、宮崎県のほうに来ていただけそうな方がいるのかといった情報収集をして、天皇杯得点に向けた競技得点が取れるように努めてまいりたいと考えております。

○脇谷委員　宮崎という土地柄で、冬季の種目に関してはなかなか難しいとは思うんですけれども、３年前というのをぜひ頑張っていただきたいです。

もう一点は、皇后杯がずっと低迷しているということなんですが、女子選手はここのところ随分伸びてきているので、皇后杯に対しての女子アスリートの発掘及び育成に関してはどのように考えていらっしゃるか、教えてください。

○押川スポーツ振興課長　女性アスリートの競技得点がまだなかなか伸びていないという現状もございますので、本年度から、女子アスリートを対象にしました支援体制づくりを進めております。

本年度からですから、まだ成果としては出ておりませんけれども、女性で活躍しておられる選手に、例えば陸上の清山選手やカヌーの島津選手に強化費等を出しております。また女性特有の体の問題もございますので、ドクターやスポーツトレーナー等と連携してケア等をしてまいります。

そういったところを広げていきながら、女性アスリートの確保並びに体調管理、そういうことも含めて、今、事業を進めているところでございます。

○脇谷委員　女性アスリートに関しましては、ホルモンバランス、体調管理等の課題もあると思いますので、育成のトレーナーなども含めて、ぜひよろしくお願いいたします。

○日隈教育長　先ほど、施設整備のことでスポーツ振興課長が答弁いたしましたけれども、試合会場になる、例えば県の大きい３つの施設、あるいは市町村で会場になる施設については、ぎりぎり言えば、前年度までにはなんとか設置していきたいということで、国体施設整備については総合政策部のほうで進めています。練習

会場についてはスポーツ振興課のほうで進めておりますが、できるだけ早く、やはり二、三年前までにはちゃんと整備して、練習していかなくてはいけませんので、そこのところは時間の関係があります。

加えて、今、女性というお話があったんですけれども、女性の点数が低いのは競技力のこともありますけれども、未普及競技というか、まだチーム編成ができていない競技もあります。

例えば今回、宮崎工業高校に水球用の練習プールを造ります。水球用は普通のプールと水深が違うんですが、今練習しているプールには実は女性の更衣室がないとか、女性には競技種目として少年がないので成年になりますけれども、まだチームが編成されていないということがあります。今回更衣室も男女別々に用意するような形で練習会場ができれば、女性チームができるという方向で進んでおります。

いろんな取組をやる中で女性の参加種目も増えてくると思いますので、女性については、ちゃんと視点を当てながら進めていきたいと考えています。

○渡辺委員　直接関係ありませんが、今年の国体開催は鹿児島だと思いますけれども、新型コロナウイルス感染症の影響で鹿児島国体の開催云々とか検討状況とか、何らか把握していることがあれば教えてください。

○押川スポーツ振興課長　報道でも出ておりますけれども、鹿児島国体につきましては６月末までには態度を決めると伺っております。

また、併せまして、九州ブロック大会につきましては、５月末には判断をしたいと伺っております。

以上でございます。

○日高博之委員　コロナの関係ですが、今回、中体連は大会をずらしてでもやると聞いています。一方で、高体連は大会中止、高校野球の県予選はまだ分からないという状況ですね。

将来のアスリートに夢を持たせるためにも、県はあのときコロナだったけれどこういうことまでやってくれたんだと、だから宮崎のためにやってやらなければと彼らに思わせるためにも、救済策を考えてあげないといけないのではないですか。

日程が云々とかありますけれども、うまいことずらして調整すればできなくはないですよね。教育委員会はその辺を最大限にやらねばならないでしょう。関係ないけれども、運動会も、コロナの終息を見て、場合によっては10月にやってもいいという話もあるわけですから。

今の若者のために、教育委員会は面倒くさがらないで、前向きにやるべきだと思いますが、教育長、そうじゃないですかね。

○日隈教育長　お話があったとおり、高校総体については既に全国大会も県大会も中止となっています。５月の終わりぐらいから６月が期間としてメーンだったと思いますので、本当に苦渋の選択だけれども、やっぱり難しいということでぎりぎりで断念されたということです。

また、高校野球についてはこれからの決定ということですが、スケジュール的には、全国のほうが多分６月の頭のほうで決まり、それを受けて、県のほうは６月中旬ぐらいで態度を決定するのかなと思います。

なくなった高校総体の分についての御質問ですけれども、特に高校３年生は、就職にしても進学にしても、スポーツ系で行かれる生徒さんたちも結構おります。個人記録はある程度持っていらっしゃるにしても、団体競技について、ベスト４とか優勝とか、いろんなことが要因に

なると思いますので、企業や大学には、その点は斟酌してくださいと要望はしています。

されど、３年間取り組んできた成果の場を、何らか持ってあげたいと県教育委員会でも考えております。

高体連のほうと協議していきますが、期間は、10月にはちょっと無理だと思います。なぜならば、９月16日からは就職解禁で、職業系学校、いわゆる産業教育系についてはもう就職の面談等が始まりますので、その時期に大会というのはちょっと３年生には厳しいかと思います。

ですので、コロナの感染が沈静化したとして、ぎりぎりで考えると８月までに、場所と人の確保が十分できるよう競技ごとに考えながら、何かできないかを今後検討していきたいと考えております。

○日高博之委員　確認ですが、８月までにやるかどうかを決定して、開催をするんだったら９月ということですか。

○日隈教育長　６月末か７月頭には判断を行い、実施が８月までに終わるということでないと厳しいのかなと思います。

○日高博之委員　わかりました。

○窪薗委員長　よろしいですか。ほか、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪薗委員長　それでは、ないようですので、これで終わりたいと思います。

執行部の皆さん、御退席いただいて結構でございます。お疲れさまでございました。

暫時休憩いたします。

午前11時18分休憩

午前11時20分再開

○窪薗委員長　委員会を再開いたします。

まず、先日開催されました委員長会議の結果につきましては、先日の常任委員会で資料の配付がありましたので、説明は省略させていただきます。御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、協議事項（１）の委員会の調査事項についてであります。

お手元に配付してあります資料１を御覧ください。

１の当委員会の設置目的につきましては、さきの臨時県議会で決定されましたところでございますが、２の調査事項は、本日の初委員会で正式に決定することとなっております。

なお、この資料に記載の調査事項は、特別委員会の設置を検討する際に各会派から提案されました調査事項を整理し、参考として記載しております。

調査事項は、今後１年間の活動方針を決める重要な事項であります。

特別委員会の調査活動は、実質６回程度しかございません。有効な提言を行うためにも少し時間を取って御議論いただきたいと思います。

調査事項につきましては、委員の皆様方から御意見がありましたらお願いいたします。御意見はないですか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪薗委員長　各会派からの要望を整理した事項は、いずれも重要な事項と思っております。そのため、調査項目は資料１の２のとおりとして、（１）天皇杯獲得に向けた選手の発掘や育成に関すること、（２）指導者育成に関すること、（３）体育施設の充実に関すること、（４）スポーツランドみやざきのさらなる推進に関することとし、それぞれ重点的に調査を進めたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪薗委員長　異議なしということです。それでは、そのように決定いたします。

次に、協議事項（２）の委員会の調査活動方針・計画についてであります。

資料１を御覧ください。

活動方針（案）につきましては、資料１の３に記載してあります。

活動計画（案）につきましては、資料２を御覧ください。

これにつきましては、議会日程や委員長会議の結果を考慮して作成しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響で、特に７月、８月の県内調査、10月の県外調査について、このとおり開催すべきかどうか検討が必要かと思いますので、この活動計画（案）を基本としながらも、その都度、委員の皆様方には御相談申し上げながら、また他の常任委員会、特別委員会とも調整を行いながら、調査活動を進めてまいりたいと思います。

ここで、何か御意見等がございましたらお願いいたします。

○渡辺委員　調査事項、活動方針等、委員長から御提案のあったとおりで大丈夫だと思っています。その中で、どのタイミングでも結構なんですけれども、調査事項の３番に体育施設の充実に関することがあります。先ほどの日高博之委員の発言でもありましたが、例えばプール、陸上競技場、体育館という県の新規の大規模については、総務政策常任委員会を中心に議論がなされていると思うんですが、開催地が決まっていく段階で、その他比較的規模の小さい施設の整備や改修等々がどんどん出てきていると思います。先ほど言った大きなところは総務政策が所管でやっていたりしますが、例えば県土整備部の持っている施設であったり、教育委員会の持っている施設であったり、市町村が持っている施設があると思います。

もちろん、具体的な整備は来年度以降になるものもあるとは思いますけれども、この特別委員会の段階で、この競技をこの町でやるに当たって何がどうなってというものを特別委員会の場で総括的に整理するような場を――方向性、費用も大きく関わりますし、先ほど話があったように、コロナの状況によっていろんなものも変わってきているところかと思いますので、どの機会かは委員長、副委員長にお任せをいたしますが――一度、場を取っていただければなと思いますので、希望として申し述べます。

○窪薗委員長　ほか、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪薗委員長　次に、協議事項（３）の県内調査についてであります。

再び、資料２を御覧ください。

７月28日から29日で県南地区、８月25日から26日までで県北地区の県内調査を計画しております。

先ほども申し上げましたとおり、このとおり実施できるかどうかは状況を見ていく必要があるところですが、このとおり実施となりますと、相手先との調整が必要であり、あまり時間もないことですから、現時点での委員の皆様方の御意見を聞かせていただき、準備をさせていただきたいと考えております。

○日高博之委員　１度行ったことがあるんですけれども、鹿児島の鹿屋体育大学はスポーツ医学がすごく優れている。言ってみれば筑波大学よりも優れているような機材もありますし、鹿児島県と連携をしているという話も聞きますので、再度行ってみたいですね。鹿児島ですけれども。

○窪薗委員長　計画のほうはこちらに任せていただくということで、ほか、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪薗委員長　先ほど協議いたしました調査事項を踏まえまして、県南調査、県北調査の調査先につきまして、御意見がありましたらお願いいたします。県内です。ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪薗委員長　特に御意見や御要望もないようですので、県内調査先の選定につきましては、正副委員長に一任いただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪薗委員長　それでは、正副委員長で準備を進めさせていただきます。

次に、協議事項（４）です。次回委員会についてであります。

先ほど御協議いただきました調査事項を踏まえまして、次回の委員会での執行部への説明資料要求について、何か御意見や御要望等はありませんか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪薗委員長　特にないようですので、次回の委員会の内容につきましては、正副委員長に御一任いただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪薗委員長　それでは、そのような形で準備をさせていただきたいと思います。

その他でございます。

最後に、協議事項（５）です。

その他で委員の皆様方から御意見がございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪薗委員長　次回の委員会は、６月定例会中の６月22日月曜日、午前10時からを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上で本日の委員会を閉会いたします。御苦労さまでございました。ありがとうございました。

午前11時30分閉会

署　名

スポーツ振興対策特別委員会委員長　　窪 薗　辰 也